

研究課題：がん医療の均てん化に資するがん医療に携わる専門的な知識および技能を有する医療従事者の育成に関する研究

課題番号：H19-がん臨床一般-001

研究代表者： 国立がんセンター中央病院総合病棟部医長
片井 均

1. 本年度の研究成果

1) 海外研修

がん専門病院であるMDアンダーソンがんセンター(米国)、リーズ教育病院(英国)を主任研究者が訪問し、がん専門医プロフェッショナルリズムについての議論を行うとともに教育資料を獲得した。リーズ教育病院と派遣プログラムに同意した。

2) 総合研究

がん診療連携拠点病院に勤務する、がん化学療法医療チーム、緩和ケア・精神腫瘍学に従事する医師およびチーム、がん診療に従事する診療放射線技師、がん診療に従事する臨床検査技師、看護師、相談員、院内がん登録実務者および短期間のがん専門研修医などの多職種におけるがん研修を企画および運営した。21年度の受講者数は約3500名(10月まで)。

3) 薬物療法分野

日本臨床腫瘍学会と共催でパシフィコ横浜において、教育セミナーを開催した(8月8日から9日)。総論・各論を合わせて25単位の講演が実施され、約800名の医師およびコメディカルが参加した。また、本セミナーの内容を音声付スライドでインターネット上に公開した。本セミナーの音声付スライドサイトへの10月の月間アクセス数は約3800件であった。

国立がんセンター中央病院内科のスタッフ医師に対する、現在の専門分野以外の臨床研修を実施するためのカリキュラムに基づき他科の研修を行った。スタッフ医師1名が、本年度日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医を受験する。

4) 緩和医療分野

「がん医療における消化器症状とがん疼痛に対する治療方法」講演会を開催した。日本緩和医療学会に委託して各県で開かれている「緩和ケア講習会」と棲み分けるため小規模講習会で、対象を「がん診療に携わる若手医師」への教育へとした。

5) 麻酔科分野

本邦では麻酔科医が不足し、全国のがん拠点病院において十分な麻酔管理体制を整えている施設は限られている。そのためがん医療の均てん化という意味では、大きな問題となっている。麻酔科医を充足することと並んで重要なのがん外科治療における麻酔管理の教育体制の整備である。麻酔科専門医の資格を持たない若手麻酔科医20名を対象にがん手術における麻酔管理の特異点とその解決法について教育活動を行った。

6) がん看護水準の均てん化を目指した人材育成プログラム

がん看護における人材育成の教育モジュールの作成と、がん対策情報センターを中心とした研修・教育実施施設間の連携・支援体制試案の作成に取り組んだ。がん化学療法看護に関する講義を学習用webコンテンツとして作成した。学習用コンテンツをDVD化し、都

道府県がん診療連携拠点病院を中心に配布し、内容および活用方法についての意見（学習ニーズ・教育ニーズ）調査を行う（3月）。この意見をもとに、受講者側の学習ニーズと提供者側の教育ニーズを考慮してコンテンツをe-learning化する（22年度）。

2. 前年までの研究成果

米国メイヨー・クリニックとの相互派遣プログラムを実施した。都道府県が推薦する者あるいはがん診療連携拠点病院に勤務する、がん化学療法医療チーム、緩和ケア・精神腫瘍学に従事する医師およびチーム、がん診療に従事する診療放射線技師、がん診療に従事する臨床検査技師および短期間のがん専門研修医などの多職種におけるがん研修を企画および運営した。医学生、研修医に対してがん専門医に対する啓蒙を図る目的としての腫瘍内科セミナーを開催した。山形県内放射線治療施設で「放射線治療症例検討用メーリングリスト」を立ち上げ、実症例に基づいた教育を開始し、地域がん診療連携拠点病院に、遠隔放射線治療計画システムによる診療支援を実施した。また、「東北がんネットワーク」を設立し、格差解消に向けた活動を開始した。臨床試験における放射線治療の品質管理プログラムを利用した放射線治療専門医の育成のため、施設から放射線治療計画データを収集し、インターネットを利用して治療計画の評価を行った。がん診療に携わる若手医師を対象として、「消化器症状とがん疼痛に対する治療方法」講演会を開催した。

3. 研究成果の意義および今後の発展性

がん治療の専門医およびコメディカル・スタッフの育成制度が、一部分野で開始された。評価制度は、開発中だが、各分野において育成制度が確立し、効果的かつ効率的に育成されれば、わが国におけるがん治療の均てん化ひいては治療成績の向上に直結するものと期待される。また、がんに対する薬物療法、放射線治療および終末期の緩和医療などをそれぞれ専門とする医師が担当すれば、治療成績の向上およびがん患者のQOL向上をもたらす以外に、不適切な医療による医療費の浪費が減少するものと期待される。

4. 倫理面への配慮

本研究は直接診療にかかわる研究ではないため研究施行に対する倫理面の問題はない。本研究班は、むしろがん診療の上での倫理的な問題をも包括する教育カリキュラムを考えるものである。

5. 発表論文

1. Fukagawa T, Katai H, Saka M, Morita S, Sano T, Sasako M. : Gallstone formation after gastric cancer surgery, J Gastrointest Surg, 13(5): 886-889. 2009
2. Tanai C, Nokihara H, Yamamoto S, Kunitoh H, Yamamoto N, Sekine I, Ohe Y, Tamura T. : Characteristics and outcomes of patients with advanced non-small-cell lung cancer who declined to participate in randomised clinical chemotherapy trials. Br J Cancer 100: 1037-1042, 2009.
3. Gandara DR, Kawaguchi T, Crowley J, Moon J, Furuse K, Kawahara M, Teramukai S, Ohe Y, Kubota K, Williamson SK, Gautschi O, Lenz HJ, McLeod HL, Lara PN Jr, Coltman CA Jr, Fukuoka M, Saijo N, Fukushima M, Mack PC. : Japanese-US Common-Arm Analysis

- of Paclitaxel Plus Carboplatin in Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer: A Model for Assessing Population-Related Pharmacogenomics, *J Clin Oncol* 27: 3540-3546, 2009.
4. Mok TS, Wu YL, Thongprasert S, Yang CH, Chu DT, Saijo N, Sunpaweravong P, Han B, Margono B, Ichinose Y, Nishiwaki Y, Ohe Y, Yang JJ, Chewaskulyong B, Jiang H, Duffield EL, Watkins CL, Armour AA, Fukuoka M. Gefitinib or Carboplatin-Paclitaxel in Pulmonary Adenocarcinoma. *N Engl J Med* 361: 947-957, 2009.
 5. 大江裕一郎. NPO法人日本臨床腫瘍学会による教育. *日本臨床* 67 卷 (増刊号 1) : 550-554, 2009.
 6. 小谷凡子、勝俣範之「第三相試験」がん薬物療法学、*日本臨床* 67 卷: 408-413、2009
 7. Katsumata N, Watanabe T, Minami H, Aogi K, Tabei T, Sano M, Masuda N, Andoh J, Keda T, Shibata T, Takashima S.: Phase III trial of doxorubicin plus cyclophosphamide (AC), docetaxel, and alternating AC and docetaxel as front-line chemotherapy for metastatic breast cancer: Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG9802). *Ann Oncol*, 20(7):1210-1215, 2009
 8. Noriyuki Katsumata, Makoto Yasuda, Fumiaki Takahashi, Seiji Isonishi, Toshiko Jobo, Daisuke Aoki, Hiroshi Tsuda, Toru Sugiyama, Shoji Kodama, Eizo Kimura, Kazunori Ochiai, and Kiichiro Noda: for the Japanese Gynecologic Oncology Group A Randomised Phase III Trial of “Dose-dense” Weekly Paclitaxel in Combination with Carboplatin for Advanced Ovarian Cancer, *Lancet*, 374 : 1331-1338, 2009
 9. Kanai M, Ishiguro H, et al.: A history of smoking is inversely correlated with the incidence of gemcitabine-induced neutropenia, *Annals of Oncology*, 20: 1397-1401, 2009
 10. 服部政治、佐野博美: 日本における慢性疼痛を保有する患者に関する大規模調査、ペインクリニック、Vol. 30、別冊春号: S3-S14、2009
 11. 服部政治: 外科医にとっての緩和医療の在り方、*Medicament News*、1992号:16-17、2009
 12. 細川豊史: 特集「神経障害性疼痛」、疼痛 (痛み) の概念、*臨床神経科学* 27 (5) : 488-489、2009
 13. 上野博司、細川豊史: 仙骨部神経根ブロック、透視下神経ブロック法. 編集; 大瀬戸清茂、*医学書院*、134-137: 2009. 6. 15
 14. Shimoyama, M., Szeto, H.H., Schiller, P.W., Tagaito, Y., Tokairin, H. Eun, C. and Shimoyama, N.: Differential analgesic effects of a mu-opioid peptide, [Dmt¹]DALDA, and morphine, *Pharmacol*, 83: 3-37, 2009
 15. 有賀悦子; がん緩和医療 がん疼痛対策. *日本内科学会雑誌*. 98(6) : 165-173, 2009
 16. 有賀悦子; がん治療における患者への対応 集学的治療と終末期ケア. *日本癌治療学会誌*. 44(3): 1345-1350, 2009

6. 研究組織

①研究者名	② 分担する研究項目	③最終卒業学校・卒業年次・学位及び専攻科目	④所属施設及び現在の専門(研究実施場所)	⑤所属機関における職名
片井 均	がん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	慶應義塾大学 (1982年卒) 医学博士 腫瘍外科	国立がんセンター 中央病院・胃外科 腫瘍外科学	医 長
宮下 徹也	がん麻酔治療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	浜松医科大学 (1991年卒) 医学博士 麻酔科学	国立がんセンター 中央病院・麻酔科学	部 長
森 文子	がん薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	北里大学 (2000年卒) 看護学修士 看護学	国立がんセンターがん 対策情報センター がん対策企画課	研修専門官
大江裕一郎	がん薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	東京慈恵会医科大学 (1984年) 医学博士 臨床腫瘍学	国立がんセンター 東病院・腫瘍内科学	部 長
勝俣 範之	がん薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	富山医科薬科大学 (1988年卒) 腫瘍内科	国立がんセンター中央 病院 臨床試験・治験開 発部薬物療法室 腫瘍内科学	医 長
篠崎 勝則	がん薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	広島大学大学院 (1999年修了) 医学博士 外科学	県立広島病院 臨床腫瘍科 腫瘍内科学	部 長
大山 優	がん薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	日本大学 (1991年卒) 腫瘍内科学、血液内 科学	亀田総合病院 腫瘍内科 腫瘍内科学	部 長
石黒 洋	がん薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	千葉大学大学院 (2005年修了) 腫瘍内科学	京都大学大学院医学 研究科・探索医療センタ ー検証部 腫瘍内科学	講 師
服部 政治	がん緩和医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	大分大学 (1992年卒) 麻酔学、ペインクリ ニック、緩和医療	癌研究会附属有明病院 麻酔科 麻酔学、緩和医療学	医 長
細川 豊史	がん緩和医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	京都府立医科大学 (1981年卒) 医学博士 麻酔学、疼痛治療	京都府立医科大学 麻酔科 麻酔学	准教授
下山 恵美	がん緩和医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	千葉大学 (1984年卒) 医学博士 緩和医療学	帝京大学ちば総合医 療センター・麻酔科 麻酔学、緩和医療学	教 授
有賀 悦子	がん緩和医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の育成に関する研究	筑波大学 (1987年卒) 緩和医療学	帝京大学医学部・医療情 報システム研究センタ ー・緩和ケア科 緩和医療学	准教授